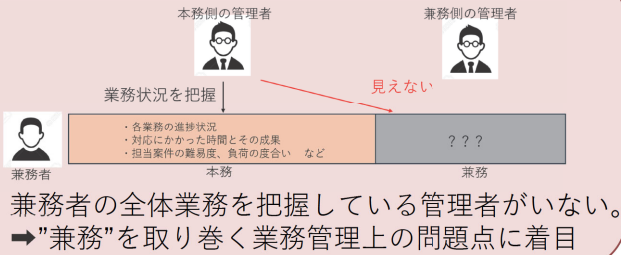


DXコース 修了制作

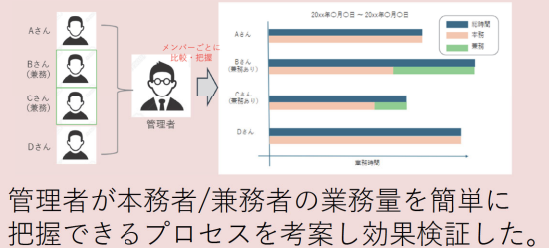
# データ活用による業務管理支援の効果検証

名前: sdx02-29 種倉 平晃

## 開発における問題点



## 手法・ツールの適用による解決



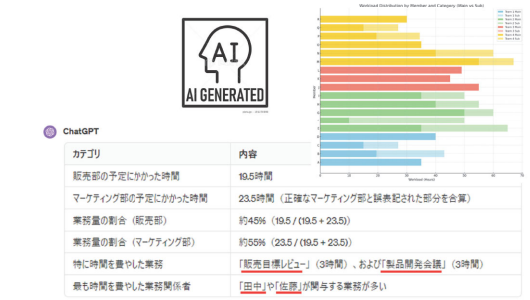
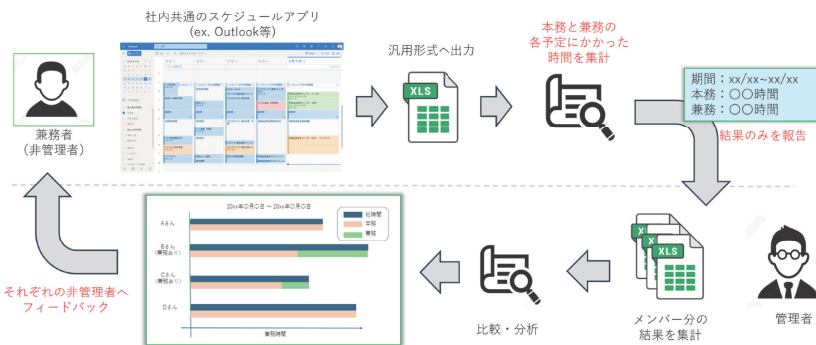
## 業務量抽出プロセスと生成AIの活用による集計・評価

### ■業務量抽出プロセス

- 社内共通のスケジュール情報から業務時間を集計 (既存データの活用)
- 非管理者自身が業務量を抽出し管理者へ報告 (個人情報保護)

### ■生成AIの活用

- 複数条件に基づく分類&視覚化
- 客観性及び一貫性のある分析FB



→ 生成AIを使って複雑なマクロを介さずに正確かつ容易に集計・分析

## 効果検証(アンケート結果抜粋)

40代・管理者  
メンバー数:6名  
うち兼務者:3名

- ✓ 業務量の見える化は大いに価値がある。
- ✓ 一方でスケジュールデータが本当に正しい情報かは要課題と感じる。
- ✓ 状況把握はOK。適正な調整/評価には業務量の大小だけでなく中身を把握する機構が必要。

20代・兼務者  
本務 70%  
兼務 30%

- ✓ 兼務量が定量的に報告できるのは有難い。すべてのスケジュールを上長に報告するのにはためらいがあった。
- ✓ 生成AIで客観的な分析結果が得られることで自覚していなかった気づきが得られた。

## まとめと今後

今回の取り組みによってデータ活用の初期段階(部分的な業務状況の把握)は達成。  
→ データ活用による公平かつ適切な管理評価体制の構築を目指したい。

(業務管理におけるデータ活用のステップ)

